

令和 6 年度第 2 回八戸市環境審議会
令和 7 年 2 月 14 日（金）14 時 30 分～
八戸市庁本館 3 階 議会第二委員会室

○開会

【事務局】報告案件 1 【1】～【4】について説明

【案件 1：質疑応答】

（会長）

皆様から御意見・御質問ありましたらお願いします。

多岐にわたる取り組みになります。皆様いかがでしょうか。

皆さん考えている間に私の方から質問します。1 枚目の（1）の資料。下の段にアクションプランがあります。その中に重点的な取り組みということで 2 つ目に「脱炭素・気候変動適応社会づくり」とあります。八戸港のカーボンニュートラル、たぶん県の港湾関係が主体の事業で、八戸市も参画されていると思うのですが、これは現在どのような話し合いがされているのでしょうか。

（事務局）

先日、今年度 1 回目の会議がありました。計画を策定して、港湾に関する事業者の方の具体的な取り組みというもののたま出しは出来ている状態ではありますが、まだ出来たばかりで実績が出ていないという報告がございました。その中で今トピックとしては八戸市においても水素のプロジェクトチームが立ち上がり、そのチームも構成メンバーとして参画するという報告がございました。明確な進捗状況のお話はなかったのですが、参加している事業者の方たちがどういうものを考えているのかという説明がありました。

（会長）

ありがとうございます。

水素に関しては、前はオーストラリアから水素をタンカーで運ぶというニュースもありましたがそれも採算の関係で頓挫するとか。水素に関してはこれからも紆余曲折あると思うんですよね。八戸市の立場としては、環境政策以外にも経済政策として水素産業、これをいかに誘致していくかというのが大切になってくると思います。そういう意味で、いきなり大きな施設というわけにもいかないと思うので、何か実験施設を誘致したり、スモールスタートから始められるといい気がします。良い例は、久慈にプラスチックをろ過するプラント、あれを八戸市に誘致できるとよかったですね。小さな取り組みでも進めていくとそこから大きな産業に繋がっていくかもしれません。そういう取り組みを重ねていくことがこれから大切かなという気はします。他に皆さん何かございますでしょうか。ご質問等ありましたらお願いいたします。

(委員)

はい。

(会長)

お願いいたします。

(委員)

八戸市の企業さんですが、水素と水を分解して今は一人乗りの車を、実際に走らせている企業が八戸市内であると昨年知りました。それをもっと応援というか市のほうでサポートして大きく広げられないかと思って見ておりました。

(会長)

八戸でそういう水素を使った自動車があるわけですね。

(委員)

燃料電池。

(会長)

燃料電池車。一人乗り。

(委員)

実際は実用化されているけれど値段が高いです。

(委員)

民間で作って走らせた。なかなか大学レベルの、民間的な小さなところの話なので、市がやっても産業として成り立つかどうか。

(会長)

実際に八戸の近くでこういう水素の供給拠点はおいらせの方に一か所あるくらいで八戸にはないですね。

(委員)

やれないことはないですね。模型でもなんでも、水素で動かすやつはありますから。

(会長)

そういう意味で市が税金を投入して支援するというのはそれなりのスケールが要求されると

思うので八戸市内の会社さんに協力いただいて、企業の助成をするところから始めないといけないかもしれませんよね。

(委員)

途中で申し訳ないです。電気自動車と並行して水素の方も必要だと思います。

(事務局)

水素に関しては、東京都の方で結構実走が進んでいまして、水素バスが既に走っているんです。東京都の南の方に集中しているんですが、水素ステーション、水素を充填するためのステーションが20ヵ所ありまして、バスも動かしていますし自家用車も充填できます。なかなかお金がかかるのですぐにどんと広がるわけではないと思うのですが、だんだんそういう社会が迫ってきている。実は東京で昨日見てきたばかりなんです。バスにも乗ってきました。なかなか乗り心地はよかったです。

(会長)

走っていますよね。

(事務局)

走っています。近い未来に、水素の自動車がどんどん走るという時代が来るのかなと思っております。市では水素のプロジェクトチームを設置しまして、この中でまず八戸市でどういうものができるだろうと企業にもヒアリングするなど、検討はじめてばかりです。これから具体的にどういうビジョンが描けるのかおそらくまだ先になると思いますが。

(委員)

ありがとうございます。

(会長)

水素関係で言うと福島県いわき市も確か水素のバスがありますよね。もしかしたら八戸市に近いので、あちらがどういうふうにやってどう進めるのかわかりませんが調べると参考になるかもしれません。ありがとうございます。

その他皆様から何かございますか。難しい話でなくてもいいですので、素朴な疑問でも構いません。

あと私の方から先程の脱炭素関係ですが、県の方でも住宅の断熱化について補助をするという制度ができていたと思います。それに例えば相乗りするような形で八戸市からも上乗せして支払うのは考えていないですか。

(事務局)

先程紹介した中の断熱窓の導入支援ですが、国でも補助金があり、上乘せという形で考えています。

(会長)

わかりました。

(委員)

断熱窓って実際の窓に対する、内窓対策が流行っている。すごくお金がかかる。メーカー品は内窓でも結構高いです。意外と障子がきくんです。内窓に障子をいれると空間ができる。地元の産業で出来る。アルミサッシ、樹脂サッシにすると規格ができてメーカー独占なんです。それをするとうちと意外と小さな木造家屋でも二重窓にできる。カーテンより結構効果が高い。うちにもありますが比較してみても全然違う。木と紙は断熱性が高い。空気層が出来る。そういうものだと地方でも補助金対象にできる。なかなか予算をかけられないので。地元でできるとなるとそういう感じはします。

(会長)

貴重な意見をありがとうございます。いろいろやり方はあると思うので情報を集約してできることをやるというのもいいですね。

その他何かございますでしょうか。なければ最後振り返りという形で質問の時間を設けますのでその時に質問していただければと思います。

【事務局】 報告案件2について説明

【案件2：質疑応答】

(会長)

皆様からご質問等ありましたらお願いいたします。

(委員)

はい。

(会長)

お願いいたします。

(委員)

一番最初に出火原因って何なんだろうなと。どこを探しても書いていないので聞いていいのか悪いのか心配していたのですが、もし差し障りなければ。

(事務局)

出火の原因については消防署において調査をしているところです。今三ヶ月以上経っていますが、まだ報告があがってきておりませんので、待っているところです。埋め立て物からの出火というのは間違いないですが、それ以上の報告はこれからになります。

(事務局)

例えば煙草のポイ捨てなど外からの火が原因ではなく、あくまでも堆積した埋め立て物の化学的な反応による出火です。

(委員)

わかりました。

(会長)

他に何かございますでしょうか。では私から。

埋め立ての履歴等はわかると思うのですが、いつ頃埋め立てられたものがこういった形で出火したのか、その辺は分かりますか。いつ頃搬入されたものなのか。

(事務局)

現在使用している第二区画は令和2年度から埋め立てを始めたものになります。

(会長)

出火したところがありますよね、地図でいうと出火元。このあたりに焼却灰等が搬入されていると思うのですが、この場所に搬入されたのはいつ頃になりますか。搬入されてすぐ出火したのか、ある程度時間を置いてから出火したのかその辺を確認したかったです。

(事務局)

令和2年度から均すようにしています。

(会長)

下から。平らに。

(事務局)

出火元のあたりがいつ頃のものはわかりません。

(会長)

何かの化学反応で熱をもったということですか。

(委員)

よくあるのは、有機物、炭化物が完全燃焼しない灰を入れ込んだ。炭とか、プラスチック系か有機物系の不燃残渣が混じり込んでしまったか。ちゃんと分別していなかった。そのあたりですね。不燃物だとしたら、古い下の混合物は圧縮して固めると発熱する、自然発火する。そういうのがあるので、申し訳ないが、廃棄、ここへ持ってくるときの管理がお留守になったのかな、と。

(事務局)

最終処分場について大きく 2 つの廃棄物の搬入経路があって、ひとつは清掃工場で燃やした焼却灰の埋め立てです。これは完全に燃えカスになっていてセメントで少し固めたような石ころのようなものなので、これについては埋め立てしたあとに燃える可能性は非常に低いだろうと思っています。もう一つが八戸リサイクルプラザから出てくる不燃物残渣というものです。いわゆる燃えないごみ、それから粗大ごみを破砕処理してそこから有価物、鉄とかアルミを取り除いたあとに出てくる残渣で、この残渣は二つに分かれていて可燃性の残渣と不燃性の残渣という形で振り分けをして、二つの残渣が出てくる。可燃性の残渣は清掃工場に持ち込んで燃やしている、不燃性の残渣の部分をそのまま埋め立てしている。この中に木製の例えばタンスとか大きな木製製品を破砕したものが完全に分別できずにそういったものが入っていることを確認しています。したがって、火災の原因は特定はされていませんが今後のことを考えるとこういった八戸リサイクルプラザから出てくる不燃物残渣といわれているものの中に含まれている可燃性の物質をいかに取り除くかということを対策として考えていかないといけない。そういうところまでは検討、考えておりまして実は来週この分別の仕方を改めるということを公表する予定にしておりますが、今の時点ではまだお話できないということで、新聞等で見ていただければと思います。

(会長)

今のこの資料はまだ公表前の？

(事務局)

これはすでに公表している内容で、3 のところに書いてありますが、先程言った清掃工場の焼却残渣についてはすでに埋立地のほうに埋め立てしていることで、再開しております。燃える

可能性がないので。その下にリサイクルプラザの不燃残渣については火災予防対策を検討中ということでここまで公表していて、その結果を来週公表したいと。

(会長)

今八戸リサイクルプラザの不燃残渣は？

(事務局)

三戸の民間の最終処分場に処分費を払って処分しております。

(会長)

わかりました。詳しい説明をありがとうございます。

(委員)

岩盤を防水シートじゃなくて、ベントナイトみたいなのでばんとやっているものと燃えないんだけどね。発火することは間違いないので。そのときに他のものと薄めて混ぜ合わせるという手もあるけど。

(事務局)

埋め立てのときにはならして混ぜてその上にさらに覆土するという形です。

(会長)

修繕ということでそれなりの費用もかかるということですか。

(事務局)

火災保険を適用する形です。

(会長)

保険は適用できるのですか。

(事務局)

できる見込みです。

(会長)

修繕に対してだけですか。

(事務局)

そうです。

(会長)

運搬や処分費用は。

(事務局)

対象になりません。

(会長)

わかりました。

(委員)

もともこの遮水シートは耐年性というか、どれくらい持つと考えられるんですか。30年くらいですか。

(事務局)

基本的にはそのまま埋めて、埋め殺すようなものなので、ずっと持つというものだと思うんですけど。

(委員)

実は他県の方の同じようなもので、近くの住民の方が遮水シートの破損みたいなもので地下水に、今いろいろな問題が起きているので敏感になっていると思うのですが、少し心配なので大丈夫なのかということを問い合わせされたことがあります。その中でこういう話が出てきたので、熱の掛かり具合でもろくなったり、そういうことも問題はないのか、専門ではないので詳しいことはわからないのですが。

(委員)

人工物なので劣化する事は間違いない。一番いいのは土、粘土みたいな。本当はシートの上にもうひとつかぶせているんですよね。

(事務局)

コンクリートがあってその上に遮水シートで覆っているということなので、遮水シートに仮に穴が開いたとしてもその下はコンクリートで覆っている。

(委員)

三重構造くらいで。

(会長)

普通の最終処分場ですと、ベントナイトの水が通りにくい粘土、シールで覆ってその上に遮水シートというのを貼っているんですね。今回の最終処分場が一番下がコンクリートの平らなたたきになっていたはずですが。その上にシートを貼っているんですね。そういう構造になっていると思うので、何か構造的な問題はたぶんないと思うのですが。コンクリートは大丈夫そうですか、劣化とか。いろいろと検査してみてください。我々の学科ですと建物火災があった際のコンクリートの劣化状況などを学生たちも卒論関係でやっていることもあります。長く使うものですのでそのあたりの点検もしたほうがいいかもしれませんね。

【その他：質疑応答】

(会長)

これまでを振り返って何かご質問がございましたらお願いいたします。今回の報告案件だけでなく、みなさんの身近な生活の中でのこともご質問いただければと思います。

(委員)

環境とごみ推進員のほうにからめて会議参加していますが、話題になってくるのはプラスチックの事です。市のほうとしてもプラスチックについてかなり取り組みを進めようとしておりますが、何年か前に実験的にやられた江陽地区のプラスチックのどこかの企業さんと一緒にやられた、その結果は出ているのですがその後、もっと拡大するとか進めていくとか、すごく良い取り組みだと思って見ていたのですが、突然消えてしまったような感じなのですが、どのように継続していくのか、企業にとってはいい方法ではないのか、その辺の情報も教えて頂ければ今後の参考にしたいと思います。

(事務局)

令和 4 年度に実証事業としてプラスチックを一部エリアに限定して収集したものをリサイクルするような仕組みができないかということで、その時は東京鉄鋼八戸工場において収集したプラスチックをリサイクルするという実証事業を展開しておりました。その結果として、環境省も含めていろいろと評価していただいている部分もあり、有効であるという方向に向いていましたので、市内全体で展開できないかというところを令和 5 年度から検討しております。ただ実際に事業を開始するまでには、どのようにプラスチックを収集するのかというところ、その中に収集したものから異物を除去する作業が生じます。その点をどのように対応していくのか。また実証事業の中で東京鉄鋼で、リサイクルしていただくという中身にしておりましたが、

実際に東京鉄鋼でリサイクルすることが本当に可能なのか。プラスチックの収集量にもよりまし、本当に可能なのかどうか直接お話を聞きつつ、環境省の考え方も確認しながら進めておりますが、その中でいろいろな課題が生じております。将来的には必ずやらなければならない事業であろうとの認識は持っておりますので、どのタイミングで出来るのか、課題解決に向けてどのような方策があるのかななどを検討している最中でございます。

（会長）

ありがとうございます。

（委員）

第 3 次八戸市環境基本計画、最初の清らかな水の保全関連でお尋ねします。今下水道の地盤沈下、崩落というのがありまして今あの周辺は下水使わないようにしてとか、色んなことで工事の影響があったと思います。八戸市の場合の下水道、あそこまで太い管はないと思うのですが、そういう情報や、何か話題になっているものがあつたら。関連するのは汚水の処理という事で、どうなんだろうかと。

（事務局）

今日の NHK のニュースでもやっていましたが、全国的に大きな下水道管が入っている都市で調査を始めたというお話がありました。まだ八戸市においてはそこまでの動きはないと思いますし、それほど大きな下水道管はないと思うのですが、いずれこういった全国ニュースになって大きな被害、事故になっているものですから、何かしら動きは今後出てくると思っておりますが、下水道事務所の情報は現時点では持ち合わせていないです。

（会長）

昔は環境審議会、下水道の方もいらっしゃったんですけどね。

次から出席いただいて。そのご指摘もこれから結構重要になってきますね。

その他何かございますか。なければこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

○市民環境部長挨拶

○閉会